



カトリーヌ10世
 Catherine X
Profile グローバル化が進む
 社交界事情にも通じる。
 密かな趣味は
 人間観察とコスプレ。
 好きな飲み物はモンラッシェ。
 日本ではほとんど
 知られていない、ある小国の
 女王とのウワサも!?

Theme

西洋の フォーマルウェア 日本の「礼服」

05 Lifestyle

男たちよ目覚めなさい

イラスト/ユリコフ・カワヒロ

新

しい内閣が誕生しましたね。内閣の新メンバーの記念写真では、いつもながら、男性は、モーニングを着ています。これに関して、服装のルールにうるさい方々からときどき苦情めいた質問を受けます。「皇居での認証式も官邸での記念撮影も夜なのに、なぜ燕尾服やタキシードではなく、モーニングなのか? 海外から見るとヘンに見えるのでは?」と。確かに世界基準のドレスコードに従えば、「昼間はモーニング、照明が変わる夜は燕尾服、またはセミフォーマルとしてタキシード」であるべきところなので、夜のモーニングはアウトです。

省きますが、日本における「礼服」には、奈良時代より「天皇陛下に拝謁する際の装束」というニュアンスがこめられており、何を着るべきかは、宮内庁が規定しているのです。たとえ政治の領域であっても、天皇に連なる場における参列者の服装は宮内庁が指定するものであり、西洋のフォーマルに必須の昼夜の区別も意識されています。で、現在、皇居での認証式は時間とは無関係に「モーニング」なのです。

明治時代からすでに、夏目漱石はじめ「洋行」した男性たちはみな、日本の「礼服」と西洋のフォーマルのルールが食い違っていることに気づいていました。でも、洋行帰りがどんなに西洋の最新のフォーマルのルールはこうだと主張しようと、天皇に連なる場での「礼服」システムでは、独自の決まりが守られ続けました。まあ、それによってますます天皇制の威光を強化したいということだったのでは

かもしれませんが、残念ながら、ちなみに、明治政府は和服を冷遇しました。大正時代に復活の兆しはあったものの、現在においても、「黒紋付き羽織袴」が天皇に連なる場での「礼服」として登場するのを見たことがありません。新天皇の即位礼の参列者を思い出してみてください(女性参列者の着物はまた別問題)。というわけで、西洋の社交着Ⅱフォーマルウェアと、天皇制を奉る日本の礼服は、違つものであることに「目覚めなさい」。羽織袴は、あくまで社交着として見るならば日本男性のフォーマルウェアとして最高ですよ。

